

くろしお協力隊に聞く



【今月の担当者】
地域おこし協力隊
(大方あかつき館文学館担当)
たかはし まりえ
高橋 茉莉江

Q 着任して1年が経過しますが、仕事には慣れましたか？

A 年4回の上林暁作品を読む会や文学講座などに何度も出ていると、顔見知りのお客さんも増えてきて、感想やご意見をいただけるようになってきました。また、県外で開催される文学館の研修、全国の文学館の集まりや総会などに参加させていただく機会もあり、館内にいるだけではわからなかった文学館同士のつながりに、「こんなこともやっているんだな」ということがわかってきました。

協力隊としても、全国や四国内の協力隊が参加する研修でいろいろな方と知り合って、それをきっかけに映画上映・交流イベントを開催することができたり、この1年で想像以上に人との縁やつながりが増えたとし、いろいろな積み重ねが自分なりにできたかなと思います。

Q 最近のプライベートの過ごし方は？

A 読書会を開いたり、ボランティアに参加したりしています。あとは本屋さん巡りとか。町外などで移住者さんが開いている小さなお店に行ったりします。町内外で開催している短歌や文章を書いたりする集まりにも行くようになり、自分でも作品を作るようになりました。12月には現在休校中の伊与喜小学校で文化祭を開催したいと考えており、準備を進めています。町内、町外の方々と一緒になって、それぞれ自分の一番好きなことができるイベントにしたいです。



文化祭の打ち合わせをする高橋さん

協力隊から一言！

1年間、いろいろな方に助けていただいたので、これからは恩返ししていきたいと思っています。

Kramer's Corner クレームのコーナー



今月のテーマ

アメリカの妖怪： ジャッカロープ

今月もクレームのコーナーをお読みいただきありがとうございます。今回は、アメリカの妖怪を紹介したいと思います。それは、体がウサギ、頭からシカのような2本の大きな角が生えている「ジャッカロープ」という妖怪です。ジャッカロープはアメリカ西部に生息していると言われ、その地方の昔話、特にカウボーイの話にはよく登場します。話によると、見た目がかわいいが、ジャッカロープは角がとても鋭く危険な妖怪であり、ジャッカロープの猟師は身を守るために足に金属製の管をつけていました（ジャッカロープの攻撃は届かないので、上半身を守る必要はないみたいです）。また、ジャッカロープを狩るなら、彼らの大好物のウイスキーを差し出しおびき寄せることができるので、覚えておくといいです。

ジャッカロープは角に加えてもう1つの特徴があります。歌が上手いです。ジャッカロープは人間の声までまねられ、たき火を囲んで人が歌を歌っていると、突然見知らぬ声が入ってくるというカウボーイの昔話がたくさんあります。それはジャッカロープと一緒に歌っているのです。皆さんも夜のアメリカの荒野で歌えば、一緒に歌うかもしれません。ちなみに、ジャッカロープはいつもテノール音域で歌うらしいです。

ジャッカロープはアメリカの民間伝承でよく知られ、アメリカ西部の観光地に行けば、ジャッカロープ関連のグッズをきっと見つけれられるでしょう。そして、夜に出かけたら、ジャッカロープの素敵な歌声に耳を傾けてみてください。



今月の使える！英語

ブリック アップ ユア エアーズ
prick up your ears

「注意深く耳を澄ます」という意味の英語の表現。突然何かの面白い音が聞こえたときによく使われます。例えば、ジャッカロープの歌が聞こえて、
I pricked up my ears!

